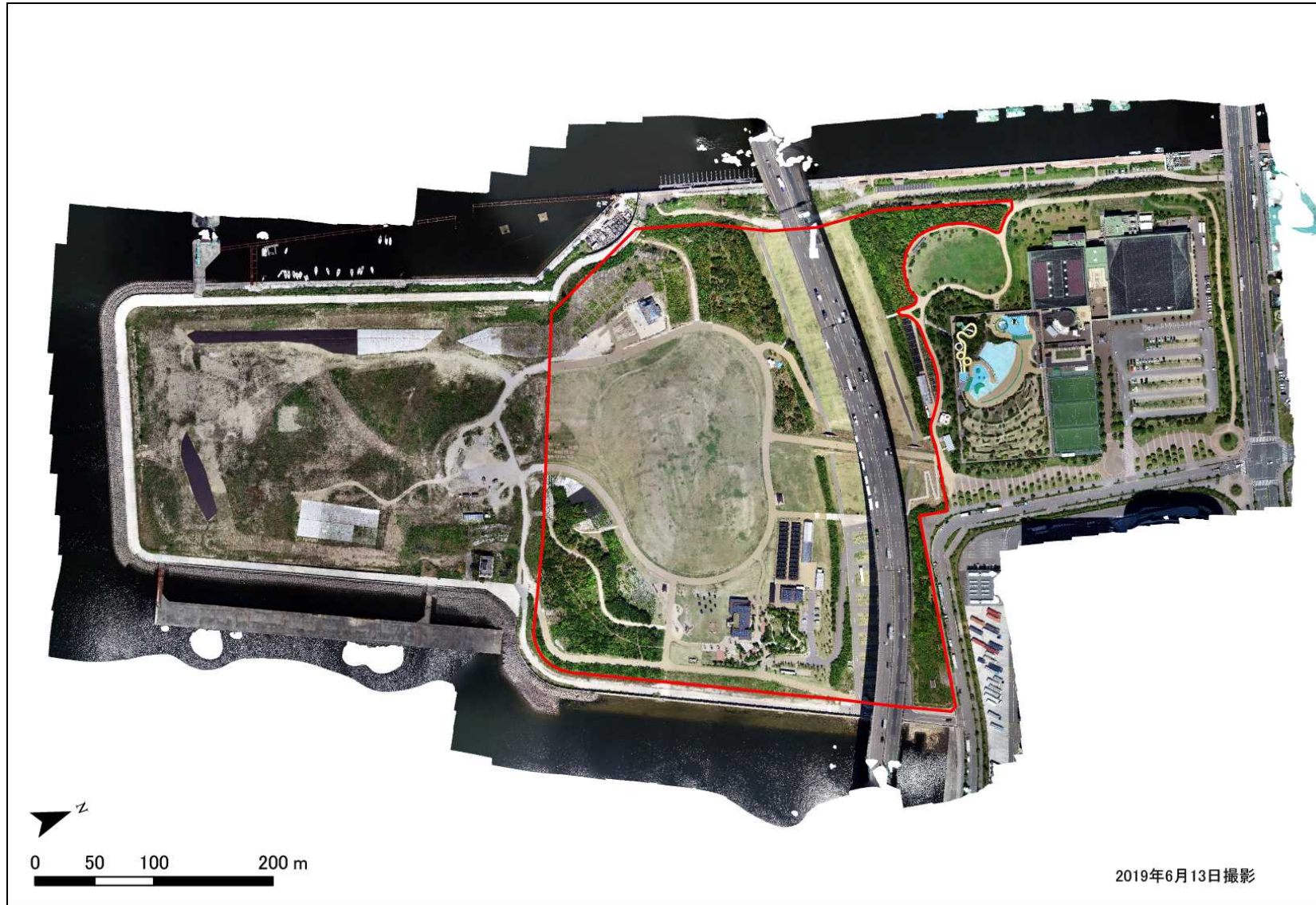


1. サイトの基礎情報

サイト名称	【日本語】 兵庫県立 尼崎の森中央緑地 【英語】 Amagasaki Forest Central Green Space
サイト住所	兵庫県尼崎市扇町33-4
サイト面積	<u>12.572</u> ha （次ページ区域図の赤囲み部分）
管理責任者名	兵庫県阪神南県民センター尼崎港管理事務所
管理開始年	2006年

1. サイトの基礎情報 (区域図)



2019年6月13日撮影

1. サイトの基礎情報 (全体写真)

尼崎の森中央緑地 自然共生サイト



- 写真番号 : 1
- 撮影日又は撮影年月 :
2023/9/14

2. サイトの特色

100年の森づくり

「森と水と人が共生するまちづくり」を目指して2002年に策定された「尼崎21世紀の森構想」の先導的拠点地区として、工場跡の遊休地で2006年から、ゼロから100年かけて育む森づくりの場としてスタートしました。

遺伝子の生物多様性

尼崎の森中央緑地は生物多様性の3つの段階「生態系の多様性」「種の多様性」「遺伝子の多様性」のすべてに配慮した森づくりを行っています。特に植栽する苗木は、六甲山系、武庫川水系、猪名川水系地域に限定した自生植物の種子を採取したものを、園内の育苗施設で育てた「地域性苗」で賄っており、遺伝子の多様性へこだわった取り組みを行っています。

「地域が育てる森」から「地域を育てる森」へ

森づくりは、これまで（令和4年度末現在）131種10.2万本の樹木を植栽しており、種子採取、苗の育成、苗の植栽、間伐まで、近隣地域の企業や団体、学校などにより参画と協働で行っており「地域が育てる森」をテーマとして森づくりを運営してきました。一方で、地域の小中学生などに環境学習として、植樹活動や自然観察、間伐木でののこぎり体験、また園内にある茅葺き民家で間伐木の薪を使ったかまど体験や昔遊びなどの里山体験を行ってもらいながら、里山文化を学んで頂くという「地域を育てる森」としての役割も担っています。

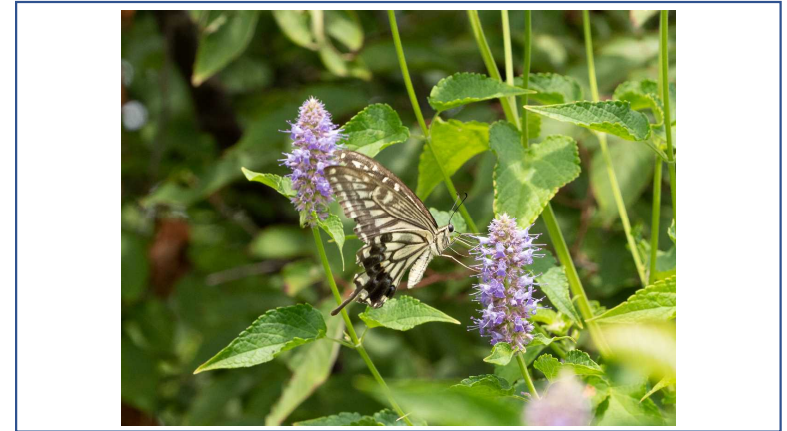
森林資源の循環へ

植栽開始から17年が経過し、樹木は高いところで10mを超える森となっており、コナラとアベマキからなる里山林のような景観を形成している森もある。また一部で皆伐更新による施業を開始し、発生した木材で、薪、シイタケの原木、チップ化によるマルチング利用をしており、今後は発生材を用いて炭焼きがま炭づくりを行うことも検討しており、森林資源の循環利用の取り組みも進めていく計画です。

3. サイトの生物多様性の様子



写真番号：2 写真の撮影年月：2023/4/11
写真の説明：植栽から17年が経過したコナラーアベマキ林



写真番号：4 写真の撮影年月：2022/6/27
写真の説明：公園内のカワミドリに訪花したナミアゲハ



写真番号：3 写真の撮影年月：2022/7/23
写真の説明：上空から見た植栽16年目のコナラーアベマキ林



写真番号：5 写真の撮影年月：2019/5/5
写真の説明：公園内で確認されたシジュウカラ

3. サイトの生物多様性の様子



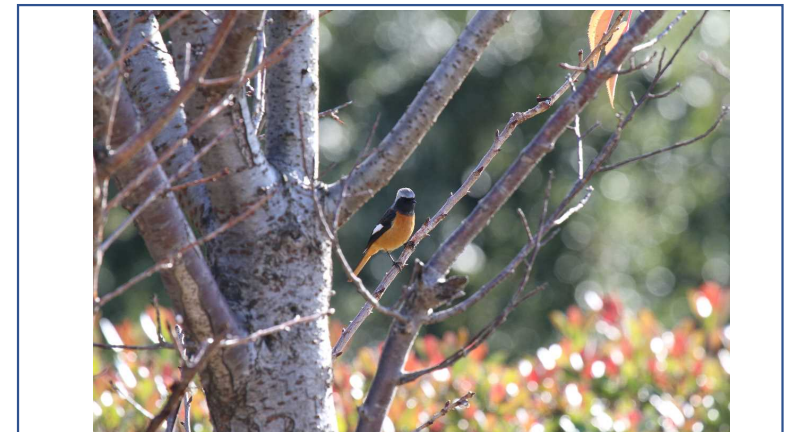
写真番号：6 写真の撮影年月：2017/6/28
写真の説明：公園内で確認したキバラハキリバチ



写真番号：8 写真の撮影年月：2022/5/3
写真の説明：公園内で確認されたキビタキ



写真番号：7 写真の撮影年月：2021/9/29
写真の説明：公園内で観測されたコサメビタキ

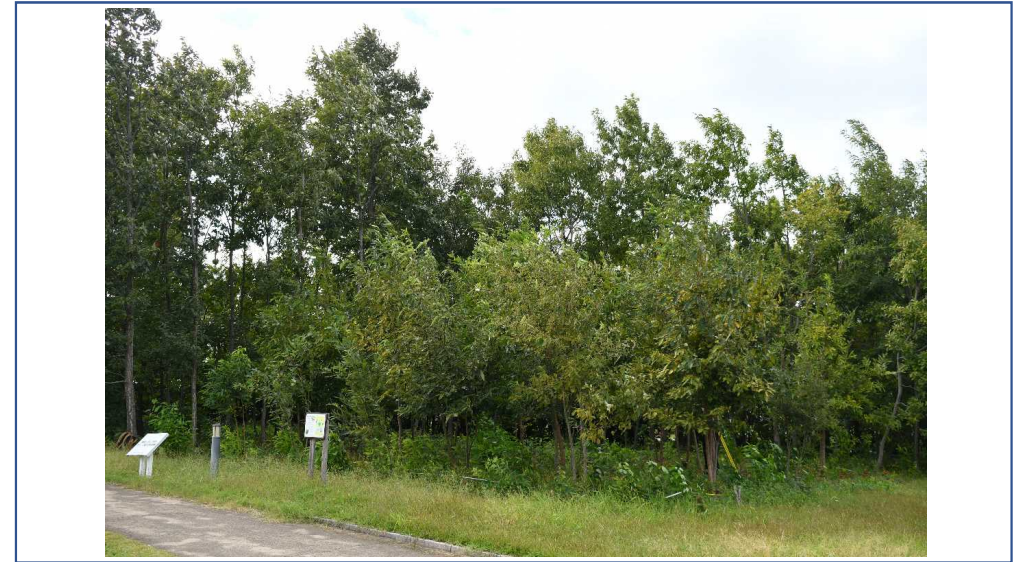


写真番号：9 写真の撮影年月：2021/12/18
写真の説明：公園内で確認されたジョウビタキ

3. サイトの生物多様性の様子

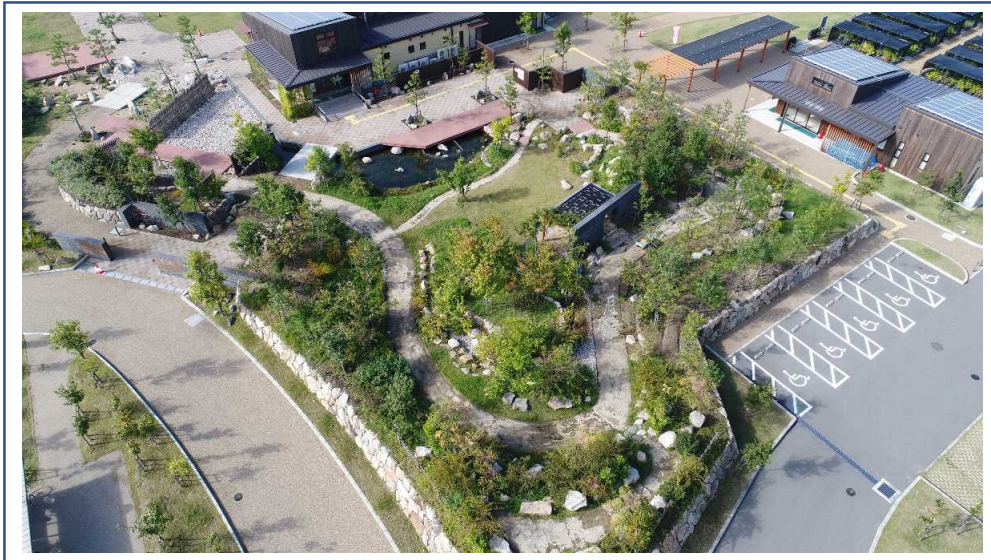


- 写真番号：10
- 撮影日又は撮影年月：2021年7月19日
- 写真の説明：公園内に設けられた池（天水池）の様子。ヌマガエル、トンボ類など水辺を必要とする生物の貴重な生息環境となっている。



- 写真番号：11
- 撮影日又は撮影年月：2022年10月18日
- 写真の説明：萌芽更新2年目となるコナラークヌギ林の様子。樹高は約6mに達している。

3. サイトの生物多様性の様子



- 写真番号：12
- 撮影日又は撮影年月：2017年10月18日
- 写真の説明：在来野草の見本園「あなの花野」の全景。これまで約200種類の在来植物が植栽されている。



- 写真番号：13
- 撮影日又は撮影年月：2022年5月3日
- 写真の説明：流域の渓谷で確認されている絶滅危惧種ヒメウラジロについて、種の保全を目的とした増殖個体の提供を受けたことから、公園内の石垣を活用して、育成実験を行っている。他には同じく絶滅危惧種のツメレンゲ、ケキンモウワラビも植栽している。いずれの種も植栽後、3年を経過しているが、良好に生育している。

3. サイトの生物多様性の様子



- 写真番号：14
- 撮影日又は撮影年月：2022年6月27日
- 写真の説明：草原モデルとして、秋の七種（ハギ、ススキ、クズ、カワラナデシコ、オミナエシ、フジバカマ、キキョウ）を植栽した場所の初夏の様子。手前で咲いているのは、カワラナデシコのほか、ウツボグサ。



- 写真番号：15
- 撮影日又は撮影年月：2022年10月3日
- 写真の説明：草原モデルとして秋の七種を植栽した場所の秋の様子。ススキの穂が目立つ。

3. サイトの生物多様性の様子



- 写真番号：16
- 撮影日又は撮影年月：2021年8月25日
- 写真の説明：市民参加による「野の花Labo」活動で植栽した場所の初夏の様子。オトギリソウ、カワラナデシコ、キキョウなどが開花している。



- 写真番号：17
- 撮影日又は撮影年月：2021年5月21日
- 写真の説明：市民活動で野草を密植した場所の初夏の様子。ヘビイチゴが結実しているほか、カワラスゲ、キツネアザミ、キンミズヒキ、ダイコンソウなどの野草が生育している。

3. サイトの生物多様性の様子



- 写真番号：18
- 撮影日又は撮影年月：2023年1月28日
- 写真の説明：市民参加による「野の花Labo」活動で、公園内で集めた落ち葉で堆肥づくりをしている様子。できあがった堆肥は野草の植栽時に使用している。



- 写真番号：19
- 撮影日又は撮影年月：2021年5月21日
- 写真の説明：四季折々の野草が楽しめる「野草の小径」を指して、様々な在来野草を植栽している場所。

4. 写真撮影位置



5. 尼崎の森中央緑地計画図

